

285) 夢

夜明けにわたし夢を見ました あなたが空を飛んでく夢を  
わたしも後を飛ぼうとしても 何故か飛べずに震えてました  
どんな時でもあなたと二人 ひとつになって飛んで行きたい  
ごく平凡な人生でいい あなたの<sup>あと</sup>後について行けたら

夜明けにわたし夢を見ました なたと二人旅する夢を  
古城の石に腰を下ろして 川の流れを見つめてました  
ひと <sup>さだめ</sup> 人間の運命を <sup>まか</sup> 流れに委せ あなたの海にたどり着きたい  
倅せなんてささやかでいい いつでも<sup>そば</sup>傍にあなたがいれば

夜明けにわたし夢を見ました あなたと別れた悲しい夢を  
雪がちらちら降る街角で 寒さこらえて泣いていました  
あなたのいない人生なんて 今ではとても考えられない  
贅沢なんて何もいない あなたの優しさ感じていれば

夜明けにわたし夢を見ました あなたの腕に抱かれた夢を  
あなたはわたしの瞳を見つめ 愛のことばを<sup>ささや</sup>囁いたのです  
いつかあなたと結ばれたくて 今までひとり生きてきました  
ありきたりの愛でいいから このままずっと抱いてほしい

倅せなんてささやかでいい いつでも<sup>そば</sup>傍にあなたがいれば  
ありきたりの愛でいいから わたしのことを抱いてほしい